



木村萬平

外國輸出入平均見込書

3157



外國輸出入不平均之建言



自今 洋銀ノ價格騰貴セシカ爲メ我國ノ一物一  
 品トシテ騰貴セサルナシ此原因タル曰幕府以  
 來外國輸出入ノ不平均ニ本ツキテ實ニ止ムベ  
 カラガルノ勢イアリ然シテ漸々貨幣減少ニ至  
 リ有賤者ハ其穢ヲ察シテ貨幣ヲ貯蔵シ終ニ今  
 日ノ秋況トナレル者ナリ夫レ輸出入不平均ノ  
 原因ハ我國民ノ各國商民ニ匹敵スル賤力ノ及  
 ハサル處アリ又其実地ノ高漲ニ於テ迂遠踈濶  
 ナル所アリテ不平均ヲ生出シ延テ今日ニ及フ

大正十一年四月  
 侯爵郵寄贈

然り而シテ洋銀ノ價格日夜ニ騰貴スル時ハ外  
國高民ノ利益巨大ニシテ我國ノ利益ハ彌更ニ  
減少スベケレ且ツ畢竟通商上ノ順序整列セザ  
ルヨリ紙幣ノ下落ヲ顯ハシ諸物價之カ爲メニ  
益騰貴ス此ノ如ニシテ止マザレハ國民ノ困窮  
固ヨリ言ヲ待タズ而國威ノ幾分ヲ失フニ至ラ  
シト疑フシ故ニ今ニ當テ明ラカニ内外通商ノ  
順序ヲ整へ深ク輸出入ノ平均ヲ慮リ以テ物價  
ノ騰貴ヲ止メ以テ國益ノ潤利ヲ謀ラサルベカ  
ラス若シ政府ニ於テ速ニ此ニ一層ノ保護ヲ加

エズンハ紙幣ノ下落益甚シク高利ハ悉ク外國  
ニ占メラレ國民以テ水火ニ陷ラシ故ニ尊嚴ヲ  
冒シテ此ニ數條ノ鄙見ヲ述白ス

第一條

海外輸出入平均ヲ慮リ國民ノ困難ヲ救フハ先  
ツ内外通商ノ順序ヲ立ツルニアリ故ニ洋銀三  
千萬弗ヲ外國ニ募ラガルベカラズ然レモ今日  
ノ秋勢ニ就テ論スレハ此國債ヲ募ルヲ實ニ不  
容易一大事件ナリトス然ト雖モ之ヲ募ラガル  
ハ國難ヲ救フノ道何クニカ存ス唯速ニ國債ヲ

外國ニ募リ輸出入ヲシテ平均セシメ以テ國民  
ヲ救ヒ以テ外債ヲ償却スベシ是レ政府大政中  
ノ最大急務ナリトス

但シ本文國債ヲ募ルノ件ハ全國人民ニ関涉  
シ實ニ容易ナグスト雖モ通高ノ順序ヲ立ル  
ハ是レ本真ノ正業ニシテ國益ヲ興スノ基礎  
ナリ然レモ此國債ニ於ケル人民其實際ヲ知  
ラズ後ニ後來償却ノ法ヲ憂ヒテ議論ヲ充ス  
ルモ計ルベカラス然リ而シテ償却ノ法タルヤ  
第一條ニ述ル如ク一ノ高會ヲ設立スルヲ第

六條ニ辨明セシ如ク問屋ノ業ヲ行ヒ之ヲ行  
フニ隨テ國益ヲ生シ又問屋ノ正業ナル手數  
料及ヒ利子ヲ生スベシ此生出シタル金高ヲ  
以テ國債ノ利子ニ充ツレハ元金三千萬弗ハ  
活用ヲ專トシ譬ヒハ今千弗ヲ仕拂フキハ千  
百廿拾弗乃至千貳百弗ヲ彼ヨリ請取ヘケン  
故ニ此國債ヲ償却セント欲スルハ第八條  
ニ連タル五百萬弗ヲ除クノ外該金高速ニ相  
纏ルベシ是ヲ以テ此償却法ハ萬々懸念ナキ  
ヲ證明スベシ

英貳條

此三十萬弗、紙幣三十萬圓ヲ合併シタル者即  
テ六十萬圓ヲ以テ一ノ高會ヲ完設シ一種特別  
ノ仕法ヲ以テ内外通商ノ順序ヲ正シクシ国内  
ノ輸入ヲ防キ輸出物品ノ取扱ニ注意セシメ之  
ヲシテ平均ナラシムルヲ實ニ今日ノ急務ナリ  
而テ其營業ハ諸問屋ヲ正業トナシテ取扱ヲ  
ナスベキナリ

但目今輸出入ノ不平均ヨリシテ我國ニテ損  
金ナル者ノ高率ニ外用債ノ利子ヲ合シテ

概算スレハ左ノ如シ

海外通商ノ爲メ輸出入不平均ノ高

壹ヶ年

金六百萬圓ト見做ス時キハ

右ヲ壹ヶ年三百六十五日ニ割當一日ニ付

金壹萬六千四百三拾圓余我國目今損金ナリ

本文三十萬弗國債ノ利子

壹ヶ年九步ト見ル由ハ

金貳百七拾萬圓也

右壹ヶ年三百六十五日ニ割當一日ニ付

金七千三百九拾円余

我國目今ノ損金ナリ

右損金壹ヶ年合シテ

金八百七拾萬圓也 金ノ正金ノ減消ニ高如キ

外ニ紙幣三十萬圓ノ分ハ無利益三ヶ

年置据ニシテ三ヶ年ノ後償却ノ仕法

ヲ定ムベシ

右二件ノ損金ヲ顯シ且ツ 國益ノ概畧ハ第六條

ニ於テ辨明スベシ

但損金ニ二種アリ其一ハ不平均ノ損金ニシ

テ空算ヨリ出ル所ノ損金ナリ其二ハ國債ノ

利子ニシテ判然帳簿ニ記スヘキ所ノ損金也

### 第三條

目今茶行セル紙幣多數ノ爲メ其價格下落シ物  
價隨テ騰昇ス故ニ紙幣ヲ減少セシト論說スル  
者アリ若シ此說行ハルハハ國民ノ困窮苦難更  
ニ今日ヨリニ甚シカラン何トナレハ紙幣減少  
スレハ不融通トナルベシ不融通ナルハハ國民  
ノ通高スル者必ス外國高民ニ謀ル所アリテ尚  
ホ之カ爲メニ利益ヲ台メラレ貨幣因テ益ス滅  
少シ減少ノ極輸出入不平均ノ幾分ヲ増加スベ

シ故ニ紙幣ヲ減少セスレテ却テ紙幣三千萬圓  
ヲ増加スルニ在リトス然テ一時三千萬圓ヲ増  
加シテ中央會社ノ資金トナシ我全國ノ流通ヲ謀  
ルトキハ國益ヲ興スノ正理ニシテ輸出入ノ平  
均ニ至ル期ニテ待ツヘシ故ニ紙幣ヲ減少スル  
ハ断然之ヲ禁止スベシ  
但紙幣ヲ減少スルノ時期ハ輸出入平均セシ  
時日ヲ視テ施行スベシ

#### 第四條

紙幣ハ公私兩便ノ爲メニ設立シ國益ヲ謀ル

ノ主意ニ付六千萬圓ヲ政府ヨリ下與シ至當ノ  
人ヲ精選シテ會社ノ特負トナシ之ヲ監督セ  
シムルコトヲリトス

但中央會社ヲ設立スルニ公立ヲ以テスレハ民  
業ヲ妨クル等ノ論議ヲモ存スベシ曩ニ通商  
司爲換會社東京高社廻漕會社ヲ被置專ラ國  
益ヲ謀ルノ保護アリシニ然ニ國用ヲナサハ  
リシ今次上申ニ及ヘル會社ノ儀ハ素ヨリ國  
益ヲ謀ルノ基礎タルモ會社ハ私立ヲ以テ稱  
スベシ然ルニ後來會社ノ慣習タルヤ通商ノ

通商タル其深意ヲ知ラスシテ空ニク議論ニ  
涉リ實際之レカ爲メニ進動セズ或ハ多ク損  
害ヲ蒙リタリ抑モ高濬ハ理外ノ理アルヲ以  
テ善ク其意味ヲ識リ以テ之ヲ行ハズンハ仕  
法何ヲ以テ立ツトアラン且ツ共會社ノ主眼  
ハ国益ヲ謀ルノ一點ニ出テ然ル後社益ヲ謀  
ルニアリ若シ支レ然ラザレハ速ニ輸出入ノ  
不平均ヲ止ムルト能ハス因テ陽ニ公私ノ區  
別ヲ立テ陰ニ政府ノ保護ヲ仰テ現存實際ヲ  
以テ盡カスヘキ人々ヲ精選シ以テ施行アラス

ニノミ

第五條

凡ソ物ニ本末アリ其本ヲ知ルニ其末ヲ知ラザ  
レハ奈何ニ高品ヲ取扱フニ利益ヲ興ス丁爲々  
能ハズ我高民ニシテ外國輸出品ヲ開港場へ持  
出ニ其潤利ヲ得ルニ注意セル者之有リト云モ  
其中資本金乏シクシテ高業ヲ営ム者甚々多ク  
内國ノ高民トシテ外國ニテ賣買セル價格及ヒ  
實際ヲ知ラズ唯賣捌クヲ以テ仕来トナシ或ハ  
出港諸費及ヒ爲換金等ニ差支アルカ爲メ不得



止廉價ニテ賣却スルモ之アリ以テ於テ外國商  
民ニ大利ヲ占メテ我國商民ノ疲弊困難極メ  
ラ少カラス故ニ以會社ヲ設立シ外國輸出ノ萬  
品ヲ引受ケテ專ラ賣捌ニ注意スルヲ以テ專要  
トスベク隨テ同港ノ各地ニ支店ヲ分ケ以テ  
組合ヲ置キ又諸縣下ヘモ之ニ准シテ組合ヲ置  
キ更ニ海外各國ヘモ同上ノ支店或ハ組合ヲ分ケ  
置キ同屋ノ正業ヲ以テ通商ニ外國賣買ノ相場  
ヲ知り適當ノ價格ヲ以テ賣捌ク時ハ我國民ニ  
於テ其利益ノ洪大タルヤ必然ナリ是レ同心愜

カニ由テ立ツヘキ通商ノ順序ニシテ純粹ナル  
利益ヲ興スル基礎タリトス

第六條

正銀貨三千萬圓ニ紙幣三千萬圓ヲ合併シタル  
者即チ六千萬圓ヲ以テ我全國ニ產出スル物品  
ヲ内外ニ活運セシメ是レニ由テ國益トナルヘ  
キノ高ヲ概算スレハ左ノ如シ

紙幣金三千萬圓ノ内

壹千萬圓ハ 會社本支ノ準備金トス

貳千萬圓ハ 府縣下ニ於テ產出スル物品ノ輸出

ヲ進マシムルハ固ヨリ論ナク准シテ

外國ノ輸入ヲ防クヘキ物品製造等

ノ貸渡金トス

以貸渡金ハ

貳千萬圓也

以利子一ヶ年壹割トシテ

金貳百萬圓也 國民ヨリ入手セシ

高ナレトモ益金トシテ集入スヘシ

會社ニテ取扱タル物品金高ノ五分ヲ手

數料トシテ荷主ヨリ請取リ以半高ハ營

業上後屬ノ者ハ分配シ残り半高ヲ會社

ノ利益トス

以金高參千萬圓ト見做シ

一ヶ年貳合五厘

金七拾五萬圓也 以益ハ陽ニ生スル利益ナリ

以紙幣三千萬圓ヲ以テ廣ク流通セシメ

大ヒニ通高ヲ勵マシテ互ニ注意スルハ

ハ壹割乃至壹割五歩ノ利益自然生スベ

シ以生シタル金高即チ利益ニテ更ニ生

スル高ヲ以テ右參千万圓ノ壹割ト見做

スベシ

一ヶ年

金 参百萬圓也

我國益ノ陰ニ生スル利益ナリ

正貨金 参千萬圓ノ内

壹千萬圓ハ 海外支店ノ準備金トナス

五百萬圓ハ 洋銀價格ノ騰貴ヲ此レ保護金ト見做スベシ

壹千五百萬圓ハ 亦一千五百萬圓ヲ以テ内

同本支店ノ資本金トシテ活

運セシムベシ然レトモ以金高ノ利子

ヲ豫メ并スルヲ能ハ故ニ壹千萬圓ヲ

平均トナシ置キテ左ノ利子ヲ算スベシ

以活運スベキ者

金 壹千萬圓也

以利子一ヶ年を割トシテ

金 壹百萬圓也 以益ハ陽ニ生スル利益ナリ

以資金ヲ以テ海外ニ通商スルヲ凡一ヶ年

三千萬圓ト見做シ 年々賣込タル高ヨリ

モ増加スベキ理由アルニヨリ 金高ノ壹

割ヲ以テ增高ト見做スベシ

以高一ヶ年

金参百萬圓也 此益ハ陰ニ生スル利益ナリ

右通商ヨリ 国益トナルヘキ 利徳ハ 陰陽ノ 字ヲ以テ 分ケタル者 一ヶ年 合併シテ 此高

金九百七拾五萬圓也

注意ニ 基キ 外国輸入品ヲ 防キ 国益トナルヘキ者ノ 概畧即チ 我國民ヲ 三千五百萬人 トシ 壹家五人ト 見做シテ 戸數七百萬家アリ 此壹家毎ニ 西洋品一ヶ年 金壹圓宛 買入ヲ 減少スレハ 一ヶ年 国益高

金七百萬圓也

但此高 注意ニ 基キ 月々 年々 増加スベキ也 然リ

右国益金

二口 合併シテ 金壹千六百七拾五萬圓也

此ニテ 我国内 損金高ヲ 差引

目今 損金トナルヘキ 高

金八百七拾萬圓也

右ヲ 差引

金八百五萬圓也 全ク 国益トナル 金高ナリ

但此八百五萬圓ノ内 陽ニ生スル 利益ハ

金参百七拾五萬圓也

内金或百七拾萬圓ハ

差引残高  
外國債ノ利子ニ充ツ

金百五萬圓也 會社ノ益金トス

右高店ヲ設立スレハ如此ノ国益金ヲ生スベシ  
然レトモ外國債ノ儀ハ三ヶ年置据ニシテ四ヶ  
年目ヨリ十ヶ年賦ヲ以テ償却リ定ケルハ國  
益ノ高益増加シテ富國ノ期ニ至ルヲ速カナ  
ヘシ

第七條

海外支店ニテ務ケル所我國産賣捌キ方ニ注意  
スルハ勿論此外金銀地金買入方等深密ニ着  
手シ之ヲ我政府ニ納進ニテ内國貨幣ノ増加ヲ  
謀ルヘシ

第八條

此回債金ノ内五百萬弗ハ保護金トシテ洋銀價  
格ノ騰貴ヲ止ムベシ  
但此五百萬弗ハ今日ヨリ後三ヶ年ノ内騰貴ヲ  
止ケル爲メニ此高悉皆損金ト見做スヘシ

第九條

外国債ノ償却ハ四ヶ年目ヨリ十ヶ年賦ノ償却  
トヤシ紙幣三千萬圓ノ償却ハ現場實地ニ隨フ  
テ四ヶ年又ハ五ヶ年ヲ置据トテ六ヶ年目ヨ  
リ又十ヶ年賦ヲ以テ償却ト定ムベシ

右ノ如ク外ハ通商ノ基礎ヲ定メ内ハ國民一般  
ニ注意シテ輸入物品ノ減少ヲ期企シ然リ而シ  
テ我内国物産ノ増殖ハ勸農高務兩局ニテ益ス  
茶砂糖水綿蚕絲紡績可牧羊場製絨可其他機械  
ニテ作ルヘキ諸物品ヲ製造シ又造船可ニテ運  
輸ノ便ヲ完カシメタレハ凡十中ノ九分ハ完全

スベシ然リ而シテ輸入ノ輸出ト大ニ其平均ヲ  
失フハ之レ通商ノ順序ノ未タ立タサルニ由テ  
然ルナリ而シテ其損金タル實ニ少ナカラスト  
ス然ルニ如クノ形況ヲ以テシテ三ヶ年若シク  
ハ五ヶ年ヲ経過シタランニハ金銀貨幣ハ益ス  
減少シ紙幣隨テ價格ヲ落シ諸物價隨リテ之レ  
カ為メニ騰貴シ我國民ノ困苦苦難更ニ救フベ  
カラハルニ至ラシ右急務ノ件々速ニ注意シテ  
輸入超過ノ弊害ヲ防カシカ島ノ左ニ之ヲ陳述  
ス

第一條

支レ輕便ニシテ要用ヲナスヘキ西洋物品ハ上  
朝廷ヨリ下萬民ニ至ルマテ朝夕之ヲ用ヒテ止  
マサルハ是レ勢ノ然ラシムル所ナリト臣モ誠  
ニ今日ノ如ク輸出入ノ間其平均ヲ失フテ我  
内損害ノ多キヲ誰カ亦痛憂セガラレヤ然ラハ  
上ニシテ朝廷次ニ大臣參議ノ諸公ハ勿論下  
ニシテ士族平民ニ至ルマテ西洋物品ノ買ヒ入  
レ方ニ注意セサルベカラス恐ナカラ  
朝廷ニ於テモ公私ノ別ヲ立テサセラレ勢メテ

西洋物品ノ買入ヲ止メサセラレ躬親カク  
之ヲ行フテ其情實ヲ教示セシメラレバ知  
ラズ誠ラ不冒固ノ順序明白ナルニ至ラシ

第二條

銀貨幣ノ内五拾錢以下ノ小銀貨ハ壹圓以下收  
納等ニ用フルノ款ケテ以テ鑄造通用アリタリ  
然ルニ壹圓銀ハ銀九銅壹五拾錢以下ハ銀八銅  
貳十リ其量目壹割ノ差異アルヲ以テ銀行又ハ  
富有ノ商民等專ラ理論ヲ爰ニ發セシヨリ衆民  
亦之ヲ知り賣買上ノ差異自然紙幣ニ及ホシタ

ルナリ故ニ市券行ノ小銀貨ハ迄テ通用ヲ被止  
壹圓銀貨相當ニシテ引替相成ベキノ旨市布令  
券出スル時ハ衆民ノ疑念ヲ断絶スベシ且壹割  
ノ差異之無キニ由リ紙幣ニ於ル差違モ亦自ラ  
減サスベシ目今銀貨價格騰貴ノ除瑣事ノ如ク  
ナレドモ是又注意ノ一端ニシテ國益ヲ謀ルノ  
一策タルベシ

第四條

小銀貨通行ノ代用ハ銅錢ナリ故ニ此銅錢ヲ數  
多鑄造シテ連ニ各縣下ニ送り小銀ニ代ヘテ通

用セシムルハ紙幣ノ下落ハ自然幾分ヲ減却  
スベシ是亦注意ノ一端ナルヘシ

第四條

輸入品多シト雖モ之ヲ防クテ容易ナルベシ何  
トナレハ唐糸砂糖石油等其他ノ物品往古ヨリ  
我國産ヲ以テ便用セザルハナシ然ルニ目今此  
三品輸入高ノ最モ巨多ナルハ其廉價ニシテ輕  
便ナルヲ以テナリ故ニ我國産ノ蠟砂糖菜種等  
ノ農作ハ自然莫エテ振ハス然ニテ粟茶或ハ人  
參等都テ輸出品ノ製作ニ注意スル者多シト至



モ輸出入不平均ノ影響ヨリニ云我國力衰エ  
ル可ハハ曾テ之ヲ知ラズ何レ又政府保護ノ大  
意ヲ辨明スル者之ヲ云ニ然レモ本年ニ至リ  
洋銀價格ノ騰貴ニ物價モ隨テ大ニ騰貴スル  
ヲ視テ始テ其原由ノ決ニ存スルヲ悟レリ其  
故ハ農高ノ家ニ米穀ヲ貯藏シテ賣捌ク者ノ少  
キハ是レ衆民タル者モ困難アラレテ恐テ我  
國ヲ愛護スルノ念慮深切ナル所以アリト知ル  
ベシ今決期ニ際シテ勸農高務局長ヲ本トシ  
設立スベキ會社役員等ハ專ラ通商ノ順序ヲ農

高民ニ示シテ廣ク多ク綿砂糖菜種蠟等ヲ作り  
製造ヲ勵マシテ洋凡蠟燭等一々モ外國ニ仰カス  
以テ石油ノ代用トナシメ因テ國益ノ大主意  
ヲ教示スルハ誰カ決ニ用ヒガル者アラレヤ  
又石油ノ如キハ我國內ニ於テ廉價ニテ產出不  
ベキ處アレハ最モ能ク之ヲ保護シ假令產出不  
ルモ利益少ナキ分ハ之ヲ止ムベシ右何レノ物  
品ニ限ラス其製作ヲ進歩セシムルニ資本金ノ  
乏シキハ若干ノ金貨ヲ貸與シ以テ專ラ我國益  
ノ存スル所ヲ謀ラハ衆民之ヲ信用シテ速ニ海

外ノ輸入ヲ防クテ容易ナルベシ是レ注意ノ極  
メテ大ナル者トス

但輸入ヲ防クモ注意ニテリ輸出ヲ進マシム  
ルモ亦注意ニテリ右兩様ノ資本金數百萬圓  
ニテモ專ラ實際ニ基リキ紙幣ヲ貸與セシム  
輸出品ハ洋銀ニ付リ国内使用品ハ紙幣ノ流  
通ノミニシテ足レリト注意スルハ輸入品  
ヲ止メ輸出ノ正貨金銀ヲ止ムルノミナラス  
終ニ洋銀ヲ以テ我國通用ノ銀貨ヲ鑄造シ如  
此シラ国土富實ニ至ラザル者萬々之ナシ右

理由ハ前件第三條ニ陳述セシ如ク紙幣ハ増加  
スベシ減少スベカウザルノ深旨此ニ存スレハ  
ナリ

第五條

金銀銅鉄石炭等掘出方ノ儀ハ人民所有地ニテ  
発見シ又ハ回來掘り来リシ者モ資本金ノ乏シ  
キカ爲メ狐疑猶豫スルモアリトス右等ノ實際  
ニ一層ノ注意ヲ加エサセラシ礦山ノ地所ニ由  
リテハ無利益ニテ資本金ヲ貸與シ特別ノ監査  
之アリテ當方無税ト定メ置カレハ有志ノ輩一

層ノ丹精ヲ以工業ニ盡スヘキハ必然ナリ是又  
注意ノ一端タルベシ

第六條

往古ヨリ法親王ヲ始メ其他宗僧ニヨリ肉食妻  
帶トモ止メ置カレシモ維新ノ后々僧侶一般妻  
帶許サレシニ付人口歳ヲ逐フテ大イニ増シ隨  
テ米穀其他物品ノ費用モ隨テ加倍スルハ当然  
ノ理ナリ是レ由テ後年ヲ慮ルニ若シ米穀ニ凶  
作アルカ又ハ事變アルトキハ東京大坂ノ如キ  
都會ノ人民ハ意外ニ困窮スベシ若シ或ハ其機

ニ乘シテ外国人ヨリ我人民ノ保助ヲ得ルモ  
尙國威ノ裁分ニモ關係スベシ就テハ今日ノ如  
ク金納ニテハ窮民ヲ救ハセウレ、一、容易ナラ  
ス故ニ金納ノ裁分ヲ米納ト改メサセウレ、カ  
又ハ高割ヲ以テ買上方ノ裁分ニ定メウレ、カ  
厚ク扶助ニ注意アラセウレ且ツ米墾所ヲ増加  
シ特別ノ保護アリテ士民ヲ移シ後年ヲ謀ル  
最大ノ急務ナルベシ是又注意ノ一端ナリ

第七條

物價ノ相場ハ自然ニ定マルノ理アリ今ヤ米高

會社ハ空米ノ賣買タルヲ以テ管  
ノ中停止セ  
ラレタリ然レモ東京大阪ノ土地ニ於テハ後前  
ノ如ク賣買ヲ許サレズンハ逐日廻米減少ニ隨  
テ米價騰貴スルギハ窮民ノ困難不少何トナレ  
ハ旧來大阪東京ノ実況ヲ觀ルニ米高會社ニ於  
テ賣買セシ米ハ多ク農民ノ自米ニ止マラズ他  
ノ作米ヲモ買入レ之ヲ廻米トシテ場所ニ賣買  
セシ者ナリ又高民ト雖モ産出スル土地ニ出張  
シ正米ヲ買入レ或ハ組合ヲ立テ、廻米ニ之ヲ  
場所ニテ賣買シ或ハ米ノ産出スル土地ノ農商

ハ多クハ限月取引米ヲ賣置キテ廻米スベシ然  
レトモ百石廻米セシ者ニテ五百石ヲ賣買シ又  
五百石廻米セシ者ニテ五百石ヲ賣買スル等ハ  
右直段ノ模様ニヨリ米高會社ノ賣買ヲ手仕舞  
致シ正米ハ之ヲ深川ニテ賣捌クモアリトス是  
等ハ之即チ空米ヲ高フ所以ノ理ナリ然ルニ安  
空米賣買ノ自由アルヲ以テ豪農富高皆大利益  
ヲ得ント歎シテ却テ之レヲ爲メニ損金セシ者  
多ク尤モ賣買ノ爲メ東京大阪ニ往見シ又ハ損  
金ヲナシ然レモ米穀自作セシ利徳 金高ハ東京

大坂ニテ糧ニ拂工因テ土地ノ流トナリ加之  
前書ノ如ク廻米ニ注意セシ所以ナリモ其ニ基  
ツクベシ又東京大坂ノ両所ハ我全国中要用ノ  
土地ニシテ物産取引ハ勿論金錢流通ノ場所々  
レハ米高會社ノ如キ巨大ナル流通ヲナサシム  
ルハ是レ国用ヲ鞏通セシムルノ一大要件ナレ  
ハ東京大坂兩所ニ限リ米高會社ヲ立置キ従前  
ノ如ク専ラ賣買ヲナサシメ常平局ニ於テ嚴密  
ニ之ヲ保護スルハ自ラ米穀ノ迴達増加シ價  
格騰貴ノ幾分ヲ減少シ廻金錢專ラ流通シ窮民

保助ノ幾分トモナルヘシ之レ亦国益ヲ謀ル注  
意ノ一端ナリ  
但此件解停ナトキハ諸縣人民却テ疑念ヲ  
生シ玄米ヲ貯蓄シ正貨ヲ收藏スルニ至ルヲ  
ニ然レモ諸縣下ノ米高會社ハ之ヲ廢止スル  
モ差支ナカルベシ何トナレハ米穀産出ノ土  
地ナレハ東京大坂ノ直段ニ隨ヒ回米ノ如キ  
取引ヲナシテ差支ナカルヘキナリ又米價意  
外ニ騰貴スルトキハ當分ノ内幾分ノ損金ヲ  
賦ハス支那米ヲ以テ保護スルハ騰貴セシ

價格ト雖モ一層減サスベシ且  
窮民ヲ救助  
スル注意ノ一端クルヘシ

第八條

目今輸出入ノ不平均ヲ止ムルニ際シ運輸ノ順  
序ヲモ一層ノ改正ヲ加ヘ郵便會社ヲシテ米國  
運輸ヲ尻カセラシメ又今般上申セシ會社ニ於テ  
注意シ我國船持一同ニ教諭ヲ加ヘ別途ニシテ  
商船會社ヲ設立シ政府ニ於テ其兩社ヲ保護セ  
ラル、ヤハ通商順序ノ相整フニ隨ヒ國益ノ大  
ビナルヲ測リ知ルヘカラス是又注意ノ一端夕

ルベシ

第九條

政府國債ヲ募リ國民ヲ救フニ際シテハ華族諸  
公モ深ク其ニ注意アルベシ然リ而シテ幸ヒニ  
拾五國立銀行アリ其株益ノ幾分ヲ募集シ之ヲ  
以テ資本金ト定メ政府ニ在テハ一層ノ保護ヲ  
加ヘ我全國旧士族平民ノ困窮セル者ヲ各處ノ  
民墾地ニ移住セシメ一村ノ組合ヲ立テ農業ヲ  
勤勉シ武藝ヲ講習セシムベシ華族諸公善ク其  
ニ注意アルハ國益ヲ興シ輸入ヲクハ固ヨリ

論ナク護国兵力ノ裁分加フルニ  
注意ノ一端タルベシ

前文ノ如ク内ハ國民ト共ニ勉勵シテ輸入ヲ防  
キ外ハ通商ノ順序ヲ立テ、從前外人ニ占メラ  
レタル利益ヲ収還シテ之ヲ我國民ニ得セシメ  
彼ノ洋銀ヲ以テ我銀貨ヲ鑄造シ以テ国益ヲ謀  
ルハ富国強兵ノ師教意貫徹シテ内国ノ安堵  
人民ノ幸福何ヲ以テ之レニ加シ不肖數年ノ志  
願空シク歲月ヲ費マシ後ニ寸心ヲ焦ガシ憂感  
ノ至寢食共ニ忘シ賤智短見ヲ不顧謹テ奉寔言

候恐惶謹言頓首再拜

府下北豊島郡下谷金板村

五拾二番地

木村萬平



明治十三年八月

